

# 3月の生活表

2022年 3月

聖マリア幼稚園

月主題：信じる

・保育日数（15/23日）

月目標：

- （3歳）** ・神様に守られて大きくなったことを喜び、感謝する。  
・心満たされる日々を経験し、4月からの新しい生活を待ち望む。  
・友だちと思いを伝え合うことを喜び、互いの思いやその子らしさを受け止め合って過ごす。  
＜保＞一人ひとりの成長の姿を保護者や保育間で共有し神様に感謝し互いに希望を持つ。
- （4・5歳）** ・どんな時でも共にいてお守りくださったイエス様が、これからも導いてくださることを信じ、希望を持つ。  
・育まれた信頼関係を土台に、安心して4月からの生活に歩み出して行く。  
・春の訪れを感じながら、心いっぱい遊び込み、交わる。  
＜保＞成長させてくださる神様に感謝する。

今年度も15日or23日の登園日数を残すのみとなりました。15日目は卒園式・修了式です。今年度もコロナ禍に見舞われる中、デルタ株以上に感染力の拡大とその速さに脅威を感じながら過ごしてきました。減数は見られませんがワクチンや錠剤の普及もあり、必ずやインフルエンザのようになることを信じ、期待して、予防しながら待つことにいたしましょう。

今年度は「共に喜んで」～すべての歩みの中で～という主題を持って進めてきました。この年度の日々を通して、子どもたち・保護者の方々と共に喜ぶ日々だったのでしょうか。喜びがあることは幸せということですね。子どもたちは日々の中で、それぞれの学年で、先生との関わりを視野に入れつつ見つめてきました。緑組になる為に、赤組は「・・・な時に先生はおこらはるし・・・」「・・・の時にはお友達が助けてくれはる」とか、花組は「お歌も劇ごっこも難しそう・・・」と練習の場を共にしての感想を表現し、叱られている先輩を見ての感想もあり、真剣に頑張った時には必ず褒めてもらえる喜びを共に感じたりと心の動きを共にしてきた一年です。喜び、悲しみ、困ったこと、親切にしてもらったこと、自らが小さいお友だちの手を取って関わっていく姿、その日その時の子どもたちの姿を通して心の綾をいっぱい学んだことでしょう。そして、子ども達のそれぞれの成長を確信しています。年齢が低いほど月齢で成長の差を認識しなければならない時もあります。同じ学年で12ヶ月の差があるのですから。でもそれはお子さん各々に成長するタイミングが必ずあるということです。しかし集団で過ごすということは、学校と違い、年齢が低い幼稚園では更に各々のお子さんを理解して関わらねばならないのです。その為には、私たち相互が各々のお子さんを共通理解し、持ち味をそこに生かしていけるようにと考えます。今まで永年お預かりしてきた多くの卒園生は、幼児期があって素晴らしく其々に生き生きと生活し、輝いています。大学や高校の卒業・入学等々を報告しにに来てくれる卒園生も多々あり、私たちはこうして幼稚園を忘れずに行ってみようと思ってくれていることに心躍らされ感動します。その子らしい道を歩んでいるんだと。保護者の皆様も私たちの思いに共感してくださって過ごしてくださったこの一年です。皆様にどのようにご満足と喜びをお与えできたかわかりませんが、今、ここに今年度最後の生活表をお届けし、ご理解ご協力に感謝申し上げます。春に向かう季節は日脚が伸び早朝と夕方の中に光を取り戻してきたということです。神様の「光の子として歩みなさい」の聖句を心に留め、今までの感謝と共に、これからもお導きいただけるように祈り、各々の時を大切に過ごして、喜び多き日々となりますように。 ご卒園・ご進級おめでとうございませう。 

## 《チャプレンコーナー》

3月月間主題：信じる

月聖句：光の子として歩みなさい。（エフェソの信徒への手紙 5：8）

私たちの幼稚園では、毎年、3月の主題聖句は同じ言葉を用います。この言葉は、幼稚園から子どもたちへの、言葉のプレゼントです。幼稚園を卒園し、小学校へと巣立って行く緑組さん、本当に大きくなりました。またそれぞれ一学年ずつ大きくなる子どもたちも、しっかりしてきました。子どもたちを見ていると、ひとりひとり、本当に「光の子」です。

「コロナ禍」と言われる期間が、これほど長くなるとは、思っていませんでした。

不便で、不安なこの時期にあっても、子どもたちは元気です。子どもたちの存在は、闇を照らしてくれる光です。

私たち一人一人にとって、「これがあるから頑張れる」というようなものがあります。それは、保護者の方々にとっては、例外なく、子どもたちだろうと思います。子どもの笑顔があるから、私たちは頑張っていけるのです。子どもたちは、私たちの心を照らしてくれる光となっています。

今、私たちは「歴史」の真ただ中にいます。世界中を感染症が覆い、多くの人々が苦しみ、日々、懸命に生きているのは、そうそうあるものではありません。感染症は、いずれは終息します。いずれ、「コロナ禍」の時期が、歴史上の一点と見なされる時が来るでしょう。未来のある時に、その時の小さな子どもたちから、「あなたはあの時に、どうしていたの？」と聞かれた時、私たちはどのように答えるのでしょうか。「一生懸命頑張っていたよ。まだ小さかった子どもたちと一緒に、毎日苦労しながら、工夫しながら、毎日乗り越えていたよ。」そこにもう一言、付け加えたいものです。「どんなときにも、希望を忘れずにいたよ。」光の子である子どもたちと一緒に居れば、どんなときにも、明るく、希望を持って生きていけます。

神様の祝福を祈ります。

## おたんじょうび おめでとうございます

### <生活指導>

☆ 進級・入学を迎えるにあたり、基本的な生活習慣の見直しをしましょう。

- ・家族でこの一年を振り返り、様々な方への感謝と神様への感謝の祈りを捧げてみましょう。
- ・春休み中に生活時間がルーズにならないように、できるだけ規則正しく行い、次のステップへの準備をしましょう。

☆ 物を大切にしましょう。

- ・進級・入学に際し、再度自分の持ち物を確認し、整理整頓してみましょう。
- ・緑組は、ランドセルに詰める練習もしてみましょう。

☆ 春の訪れを感じながら、自然の変化を全身で受け止めてみましょう。

- ・戸外で遊ぶことにより、五感を駆使してみましょう。（目・鼻・手・耳・口）  
そして、心で感じたことも、言葉を使って自分の思いを表現してみましょう。

☆ 交通安全を心がけましょう。

- ・春休み中も交通事故・怪我等に万全の注意を払いましょう。
- ・子どもさんとは手を繋いで歩きましょう。また、親子で自転車での外出をされる時は、必ず子どもを先に行かせましょう。（後ろには目が有りませんので。）

### <クラスだより>

#### 花組

「らりるれろんろん～春が来る～」このお歌を歌う頃、まだ寒さが残るけれど日差しは眩しくその日差しに暖かさを感じて...春が来るんだな～緑組さんたちもいよいよ卒園、花組さんもこの二階の保育室から巣立っていくんだな～としみじみ感じています。

この一年間、どの行事も本番を無事に迎えることが出来るだろうか、そもそも開催出来るだろうか、という壁に毎回ぶつかってきました。【春のつどい】を控え、もし開催出来なくても『劇ごっこ』や『リズムバンド』は絶対に経験させてあげなければいけない。『劇ごっこ』や『リズムバンド』に限らず、今年は出来ないけれど、来年はきっと出来るからいいか、赤組になってからでもいいや。感謝祭で出来たからいいね。等という問題ではないということが幼児期には沢山あって、それをいかにして目標やねらいに沿って実現できるのか。一度しかないこの花組の一年、それはどの年齢でも同じですが、その年齢が低ければ低いほどに、《今》だから《今》まさに必要な経験や活動がある。教育・保育現場では、コロナ禍を正しく恐れながらも守らなくてはいけない日常の中に大切な事が沢山あるということを感じました。本当ならば花組だけで『劇ごっこ』や『リズムバンド』をさせてあげたかった。しかし、行事を開催するにあたり密の問題や開催時間から考える時間短縮、そもそものクラスの人数に加え、いつ自宅待機を余儀なくされてもおかしくない状況で全員揃うかどうかとも危ぶまれてい

ましたので致し方ありませんでした。その点を踏まえ、赤組さんと一緒に練習を重ねる中で、花組はどれだけ自分たちの力を出せるのか、赤組さんの姿を見て感じて、自分たちよりも長い言葉（台詞や説明）をどんどん覚えて花組をリードしてくれる赤組さんの姿が刺激になるに違いないと感じました。しかし、自分たちが主体となって取り組む、という点ではどうしても赤組に頼ってしまう...その点を赤組への進級を控えた本花の子どもたちの意識をどうしていけばいいかな、と考えていました。そんな中、3学期から新たにお迎えした小花ちゃん存在が大きく、自分よりも一つ小さな新しいお友達を一生懸命に仲間に迎え入れよう！お手伝いしてあげたい！一緒に〇〇したい！という思いが【春のつどい】の練習・準備期間に沢山見られ、本花の子どもたちは大きく成長しているのを感じました。自分の事で精一杯のはずの子どもたちが周りのお友達の様子や状況を見て、今は〇〇をするんだな、と自分で考えて行動しようとしている。そうした経験が活動の流れを読み、自分は今何をやる時という自覚、自分はこうしたいという意思へと繋がっているということをしかりと感じました。

「先生、もう3月！3月が終わっちゃったら4月だよ！もう赤組さんになっちゃうよ～！もっと花組さんがいいよ～～！」と先生の反応を楽しみながら笑うお友達のお隣で、【春のつどい】を終え、気持ちも晴れやか大満足だったお友達が「もう〇〇くんは赤組さんになるの楽しみになったんだよ～！」ときっぱり！【春のつどい】を無事に終え、自分のお役も果たしてしかり自信がついたんだな～と嬉しくなりました。

この一年間、我慢の連続で保護者の皆様にはご理解いただきご協力いただくことの連続でした。至らぬ点多々あったかと思えます。しかし、どんな時も子どもたちを一番に、子どもたちを真ん中に、幼稚園と二人三脚で園生活をお支えいただきましたこと、心より御礼申し上げます。本当に子どもらしく愛らしい子どもたち。ご家族の愛情が溢れ出ている子どもたち。本当に優しくて思いやりがあって素直な子どもたち。良く頑張った子どもたち。4月からの新しい環境でもきっと心穏やかに新しいことに心弾ませて笑顔が溢れると信じています。大丈夫だよ！と太鼓判を押して赤組に送り出したと思います！小花ちゃんたちは花組のリーダーです！

皆様の上に神様の豊かな祝福がありますことを心よりお祈りいたします。

心より感謝を込めて。ご進級おめでとうございます！

## 赤組

♪ぼくはきみのこえがすき はなす わらうこえがすき いろんなこえがあるなかで きみのこえがいちばんすき～♪この歌を歌うにあたって子ども達に問いかけたことがあります。「みんなは誰の声が好き？」「〇〇ちゃん！」「〇〇くん！」「せんせいもおともだちも、ようちえんのみんな！」「どうして？」「だって元気になるから」人の声は、誰かを元気づけたり、勇気づけたり、励ましたり、時には傷つけてしまったり。いろんな働きをします。この1年、自分の声、言葉で自分を表現しようと頑張ってきた子ども達。みんなの声には人を元気づける、勇気づける力があります。

真面目で何事にも一生懸命。本当に真面目すぎるくらい、しかし少しずつ自分のおちゃらけの面も出しながら楽しんできました。その中で見えてきたそれぞれの課題、自信が持てなかったり、苦手意識をもって挑戦するのに億劫になっていたたり、言葉を覚えるのに不安を持っていたり。3学期は赤組としての最終学期としてそれぞれが今持っている力を最大限発揮し、あと一步ステップアップできるように、春の集いや制作の場面などでそれぞれにあった課題と向き合ってきました。

その課題に向き合うことになった子ども達は、きっと辛かったでしょう。「こんなに長い文章覚えられへん」「こんなことできるのかな？」それぞれに不安だったことと思います。しかしここでも真面目さが光り、みんな途中で投げ出しませんでした。自分の役割として与えてもらったのだから、しかり頑張ろう！できる限りやってみよう！そうして乗り越えた子ども達の顔は違いました。テストとは

違い、点数として達成が確実に見られるものばかりではありません。ある子は苦手だったお絵描きをもっと描いてみたいという気持ちになり、ある子は劇ごっこのセリフがすらすら言えるようになり、ある子はみんなの前でも自信満々に楽しんで歌えるようになりました。またある子は友達と仲良しなのに喧嘩してしまう自分に気づき、ある子はお休みの友達の分まで頑張ることができました。またある子は大好きな緑組のためなら長い言葉を覚え、ある子は今は頑張る時だと踏ん張ることができるようになりました。またある子は寝ないでお話を集中して聞くことができるようになり、ある子はそつと小花ちゃんの手をひき、さりげなくサポートしてくれるのです。最後の行事、春の集いでお見せできたところも、そうでないところもありますが、春の集いの子ども達の姿からこの1年間の成長を感じて頂けたと思います。やった！できるようになった！という子どもたちの顔はとても自信にあふれいい笑顔です。その自信がずっと続くとは限らないでしょう。きっとまた新しい壁にぶち当たり、自信をなくすこともあるかと思いますが、でもそんなときには、周りの人に頼ったらいいと思います。周りの人の声に耳をかしてみたらいいと思うのです。先日食後の休憩を110まで数えるのが面倒くさいと言っていた赤組の男の子に、緑組さんから「そんなめんどくさがってたら、緑になれへんで」という言葉が飛んできました。そう、時には優しく、時には厳しい声かもしれません。しかしその声でよし、もう一度やってみよう！頑張ってみよう！と奮い立たされるのです。そんな緑組さんに教えてもらえるのも残り14日。お世話になった緑組さんに「ありがとう」「次は僕たち私たちに任せて」を伝えていきたいと思います。

ゆっくりでもいい、それぞれのペースで自分らしさを大切に過ごしてきた、赤組の1年間。私は、元気で明るくて、素直で一生懸命な赤組さんの姿に、声にいつも元気ややる気ももらっていました。ぎりぎりまで開催できるのか危ぶまれ、なんとか迎えた春の集い。今までとは違いなんだかいい意味で緊張せず、リラックスしていた私。きっとそれは練習や日々の生活を共に過ごしてきた中で、子ども達を、先生方を信頼していたからだと思いました。だからこそ感じた安心感。本当にピアノを弾いていて心地よかったです。本当にありがとうございました。こうして子ども達と幸せに過ごせたのも、お家の方々のご協力があってこそだと感謝しています。至らない点などたくさんあったと思いますが、いつも温かく見守ってくださりまして、本当にありがとうございました。

少し早いですが、ご進級おめでとうございます！

## 緑組

入園式の集合写真。園庭の飛行機ジャングルジムが楽しくてなかなか降りてこられなかったあの子ども、大太鼓の大きな音に怯えていたあの子ども、恥ずかしがり屋で行事の度にドキドキしていたあの子ども、お気に入りのぬいぐるみを抱えて登園してきたあの子ども、花組の保育室へと続く滑り台をグルグル回転しながらの上がってきたあの子ども、「信号skip」がお気に入りだったあの子ども、登園すると真っ先にミニカーで遊んでいたあの子ども、お礼拝堂の長椅子をベッドにお昼寝していたあの子ども、お玄関でお母さんと離れられずに困り顔だったあの子ども、すっかり京都弁が上手になったあの子ども、大きな目をクリクリさせてマリアにやってきたあの子ども...もう卒園です。小さかった子どもたちに兄弟姉妹が生まれ、引っ越しなどで環境が変化しても、子どもたちの手を引いてご一緒に登園して下さった保護者の皆様ありがとうございました。この大切な幼児期に、各々が過ごされた当園での時間は異なりますが、少なくともこの1年間の山あり谷ありの園生活を共に守って下さったことに感謝申し上げます。特に、この正解の見えない不安な毎日の中、子どもが安心・安全に園生活を送るためには、皆様のご理解とご協力なくして過ごすことはできなかったと痛感しています。子どもたちは、元気に幼稚園に来てくれました。時に友達とケンカし、時に思わぬ好奇心に駆り立てられ危険を冒し、すべてにおいて順風満帆とはいきませんでした。卒園を控えた今、子どもたちが口にするのは友達を初めとする、自

分以外の人への感謝であり労りです。最後の園行事となった「春の集い」の日は金曜日。いつものように、週の終わりにお祈りしたいことがあるか？と子どもたちに投げかけると、赤・緑両クラスから手が挙がりました。「卒園してもかっこいい1年生になれますように」「東京へ引っ越してもみんなが元気でいられますように」「はやくコロナが収まりますように」「卒園してもみんなが元気にHAPPYでいられますように」「お休みの間もみんなが病気になりませんように」そして「ロシアとウクライナのケンカが早く収まりますように」...と自分たちの言葉でお祈りをしました。その言葉を受けるように赤組からは「緑組さんが卒園しても元気でいられますように」とお祈りを捧げました。そのそれぞれの言葉から「子どもたちの縦に繋がる関係が築かれた」と安心し「...ああ、1年が経った...」即ち「その時期が来た」と実感しました。「その時期」とは、正に「卒園」です。「思い出のアルバム」を歌ってくださるお母さんが涙するのではないかとその表情を見入る、先生が卒園することを寂しがっていれば「また来るから」と慰めてくれる...それは自分たちの成長を他者を通して実感し、同時に喜びを通して寂しさや愛しさの感情をも理解できている印です。そうならば、私ができることは「行ってらっしゃい」とその背中を押してあげること。「しっかり真面目にね！」と一言添えて。

そしてこの幼稚園を通して神様に会ったことを忘れないでいて欲しいと思います。「自分を大切にするように、他者を思いやる心」...神様は11人に会わせて下さり、そして一人一人にそれぞれのGiftをお与えくださいました。多くの人に出会い、多くのことを学び、心豊かに人として育ち合っていてくれることをこれからも願い、お祈りしております。

ご卒園おめでとうございます。